

消化器内科後期研修プログラム

東広島医療センター

本院のレジデントは卒後3年目であり、2年間は広島大学内科ローテーションにて研修をすでに終了しており本院勤務時は卒後3年目である。したがって、本院1年目（卒後3年目）は上部消化管検査を中心に専門医、および認定医の指導のもとに、研修している。1年目後期においては指導のもとに、実地検査（GIF）を行わせている。2年目よりはGIFは独立させて、施行させており、あらたに Sigmoidscopy の指導を行っている。2年目後期よりは ERCP や CF の指導を行う。上記検査に習熟すれば3年目からは専門医、認定医と共同で上記検査を施行させている。また、各種の処置（ステント挿入、胃、大腸EMR、ポリペクトミー）も指導を行い、4年目よりはほぼ内視鏡検査が独立して行えるように、また、内視鏡認定医を受験できるように知識や技量を磨かせるよう、指導している。

具体的には以下のプログラムである。

研修プログラム

研修の初期(前期臨床研修医)は以下のことに対して、完全な理解を求める。

- 1) 内視鏡室の組織と設備の理解
- 2) 各種マニュアルの確認
- 3) 前処置法と指示手順の理解
- 4) スコープの基本構造と操作法の理解と習得
- 5) 各種装置の基本構造と操作法の理解と習得
- 6) スコープの洗浄・消毒方法の習得
- 7) 検査の見学ならびに患者の介護
- 8) 患者のバイタルサイン・チェックと検査・治療の適応理解
- 9) オーダリング・システム, ファイリング・システムの習得

そして後期研修医には

- 1) 検査・治療(全内視鏡検査共通)の介助とデバイス操作の修得
- 2) 生検・色素撒布
- 3) 迅速ウレアーゼ試験
- 4) 三脚鉗子・ポリープ回収ネット
- 5) 拡張バルーン
- 6) クリップング(マーキング・止血術)
- 7) 局注針(EMR・止血術)
- 8) ポリペクトミー・スネアー
- 9) ERCP カニューレ(造影)

上部消化管内視鏡検査として

- 1) 観察後のスコープ引抜きの経験
- 2) スコープの挿入
- 3) 通常観察
- 4) 色素内視鏡
- 5) ヨード法
- 6) インジゴカルミン散布
- 7) 生検
- 8) クリップング(マーキング)

下部消化管内視鏡検査として

- 1) 用手圧迫等による検査介助
- 2) 挿入後のスコープ引抜き観察の経験
- 3) スコープの挿入
- 4) RS junction 通過
- 5) SD junction 通過

また、スタッフとなる医師には

検査・治療（全内視鏡検査共通）の介助とデバイス操作の修得を行わせる。

- 1) 食道ステント
- 2) EVL デバイス
- 3) APC
- 4) 各種 ESD デバイス
- 5) 止血鉗子
- 6) PEG キット
- 7) 碎石具（碎石バスケット等）
- 8) 膵・胆管ブラシ
- 9) EPBD バルーン
- 10) EST ナイフ
- 11) ENBD チューブ
- 12) ERBD チューブステント
- 13) 胆管金属ステント

上部消化管内視鏡検査としては

- 1) ポリペクトミー
- 2) 止血術
- 3) クリッピング
- 4) 局注
- 5) 止血鉗子
- 6) APC
- 7) 内視鏡的胃瘻造設術（PEG）

下部消化管内視鏡検査として

- 1) スコープの挿入
- 2) 脾湾曲部通過
- 3) 肝湾曲部通過

- 4) 盲腸到達
- 5) 回腸末端挿入
- 6) 全大腸の通常観察
- 7) 色素内視鏡検査
- 8) 生検
- 9) 拡大観察（ピットパターン）
- 10) クリッピング（マーキング）
- 11) ポリペクトミーおよび **EMR**（通常型ポリープ）

ERCP として

- 1) 十二指腸乳頭部へのスコープ挿入
- 2) カニュレーションと膵胆管造影

超音波内視鏡の基本的走査と診断について

- 1) 上部消化管
 - 2) 3) 部消化管
- 胆膵

スタッフの 2 年目、3 年目からは症例に応じて

上部消化管内視鏡治療は

- 1) 狭窄解除術（必須）
- 2) バルーン拡張術
- 3) 金属ステント挿入
- 4) 粘膜切除術（**EMR**）
- 5) 粘膜下層剥離術（**ESD**）
- 6) 食道静脈瘤治療

下部消化管内視鏡治療は

- 1) **LST** の **EMR** もしくは **ESD**
- 2) 止血術
- 3) 狭窄解除術

ERCP として

- 1) 碎石・採石術
- 2) **EST**
- 3) **EPBD**
- 4) **ENBD**

- 5) ERBD
- 6) チューブステント
- 7) 金属ステント
- 8) 乳頭切除術

以上の内視鏡検査、治療手技を行い、スタッフ 3 年目からはほぼいかなる症例にも対応できる技術を身につけさせる。

現在の後期研修医は 1 名であり、現在、下記の業務をこなしている。

月曜日	午前：	食道胃透視	午後	大腸内視鏡
火曜日	午前：	腹部 ECHO	午後	大腸内視鏡
水曜日	午前：	上部内視鏡	午後	ERCP
木曜日	午前：	外来診療	午後	回診や肝生検
金曜日	午前：	上部内視鏡	午後	腹部血管造影

土日は休み

また、週 1 回（現在は火曜日）内視鏡当番：

緊急内視鏡（吐下血）を行う。

1年目は指導医とともに行う。

処遇は後期レジデントとして正規職員であり、当直回数は月3回程度。宿舎もあり、学会出席支援もある（発表は回数制限なし、講演拝聴のための出席は年1回）。

臨床施行内容は下記の Web を参照。

http://www.hiro-hosp.jp/gairai/kakuka/04_shoukakika.html

また、病院ホームページは

<http://www.hiro-hosp.jp/>

認定指導施設は

<http://www.hiro-hosp.jp/gairai/documents/nintei.pdf>

そのうち、消化器科関連は

日本消化器内視鏡学会指導施設

日本肝臓学会認定施設

日本消化器病学会認定施設

病床数

431 床(一般 381 床、結核 50 病床)

標榜診療科（21科）

内科

呼吸器科

小児科

脳神経外科

皮膚科

眼科

放射線科

精神科

消化器科

外科

呼吸器外

泌尿器科

耳鼻いんこう科

歯科

神経内科

循環器科

整形外科

心臓血管外科

婦人科

リハビリテーション科

麻酔科